

■中根金作 造園家、作家。生涯に日本国内と海外で300近い名園を作庭し、「昭和の小堀遠州」と称えられた。

なかねきんさく

ロシア革命・1917 = 静岡県磐田郡天竜村下岡田で、三河中根邑をルーツとする旧掛川藩士族の家の長男に生まれる。

姉2人がおり、妹3人、弟1人ができる。

原敬首相暗殺1921 = 4歳：母から土蔵押し込みの仕置きを受けるほど、やんちゃ坊主であった。

父は、一時村長を務めたこともあり、名の知られた米穀店を営んでいたが、長期不況で経営悪化して、

円本時代始・1926 = 9歳：一家で中泉に移住し、中泉小学校に転校。

世界恐慌・・1929 = 12歳：卒業すると、静岡県立浜松工業学校図案科に入学し、鉄道列車通学するが、海軍軍縮条約1930 = 13歳：ついに父の店は倒産、母が得意の和裁で家計を支え、兄弟皆学校に通わせるも、貧困著しい。

満州事変・・1931 = 14歳：

剣道部に属し、武徳会二段の免許を持つほどになる。
'青年は海外へ'という山本又六校長の教育で、海外雄飛の夢を抱くようになり、朝鮮、満州への修学旅行にも強く影響されて、卒業。浜松の有力会社{日本形染}に入社し、意匠部で、捺染図案の作成を行う。京都高等工芸学校出の村上寛也部長のもと、中国、東南アジア向けの図案創作に没頭するも、生涯をかけることに疑義を抱くようになり、退職。父の友人の息子の造園家活動に興味を持ち、村上部長が自分の母校を勧めるのを蹴って、「東京高等造園学校に入学。自由な校風のもと、様々な分野の優れた教師陣から、強い影響を受ける。応召で、豊橋歩兵18連隊に入り、幸い、人事係准尉の助手として内地勤務。理想と夢を追うのが、現実的に即断するように変わって、召集解除。復学し、妹と 茶道の稽古も始める。京都への卒業旅行で、名庭園を見学したことが進路を決定的にし、戦時特令の繰り上げ卒業すると、造園学校校長竜居松之助から紹介された京都の植木職に弟子入りし、智積院庭園修理工事が初仕事、造園そのものの中に入って修業し、茶道の会でも露地役になったことで、視界が開けて行く。

創価学会検挙1943 = 26歳：

召集されて、京都大学造園教室の無給副手をするうち、病没した人の後任に推薦されて 京都府園芸技手に採用され、一休寺酬恩庵庭園の文化財指定調査から、古庭園の研究と作庭技術習得の日々が始まるが、親戚の縁で、浜松の会社の娘と結婚するも、召集され、静岡34連隊に入って中国戦線に送られ、湖南省廬山で 敗戦となり、上海から復員。東京農業大学開拓科の学生として満州にいた弟の死を知らされる。長女が誕生。京都府文化財保護課記念物係長に任命され、史跡名勝天然記念物と美術工芸を担当、庭園以外の日本文化の粋に触れるとともに、各界一流人との交遊も始まるなか、古庭園保存修理五力年計画を立て、国の補助も得て、天龍寺、金閣寺、銀閣寺、西芳寺、清水成就院など、十数力所を修理。この間、西芳寺住職の厚意で、地藏院を間借りし、庭園の調査研究に力を入れる。

三大事件・・1949 = 32歳：

法隆寺金堂火災事件が起き、文化財保護行政が全面的に見直される。

朝鮮戦争始・1950 = 33歳：

続いて、国宝金閣が放火されて炎上、官民協力のもとに、三力年計画で再建されることになり、

独立回復・・1951 = 34歳：

長男が誕生。着工した直後、肺結核を発病、

メデ-事件・1952 = 35歳：

ちょうど出来上がった新居に移住後、大手術を受け、退院後は療養生活で役所は長期欠勤

TV放送始・・1953 = 36歳：

自衛隊発足・1954 = 37歳：

金閣再建完成間近に、ようやく社会復帰すると、初めてのまとまった仕事「城南宮案水苑」作庭の好運に恵まれ、毎年工事費を予算計上する方式で、この間、慈照寺(銀閣寺)、鹿苑寺(金閣寺)、西芳寺等の修理行うとともに、各庭園の歴史も研究、京都の指定文化財の庭園で荒廃したものほぼ全てを復元、彦根の玄宮園、高松の栗林園、金沢の兼六園も修理、両親も呼び寄せ、同居。完成、大きな満足を得ることになった。

安保闘争・・1960 = 43歳：

父が死去。(社)日本造園学会評議員、京都府教委文化財保護課長補佐、裏千家茶道専門学校講師となり、

全国総合計画1962 = 45歳：

母も死去。「京の名園」_京都市の「退蔵院余香苑」に着工するが、

TV宇宙中継始1963 = 46歳：

著書「日本の庭」、

東京リビ-ック1964 = 47歳：

英語版「KYOTO GARDENS」。ハワイ・ホノルルのメモリアルパーク日本庭園など、海外での仕事も始まる。_京都府を依願退職、京都大学工学部(財)建築研究協会内日本建築庭園研究室主幹になるもなじまず、

大学紛争始・1965 = 48歳：

*「余香苑」完成とともに、中根庭園研究所を設立。

いざなぎ景気1966 = 49歳：

京都府文化財保護基金調査委員、国立奈良女子大学文学部講師、大阪芸術大学の建築学科新設に關与、

美濃部都知事1967 = 50歳：

大阪万博の日本庭園設計に参加。国際協力事業団からクウェートに派遣されての日本庭園の基本設計は、突然のイラク軍の侵攻で幻になるが、続いて、シンガポールに派遣されて日本庭園の基本設計、

霞ヶ関ビル・1968 = 51歳：

*大阪芸術大学建築学科教授。「日本庭園の保存と修理に関する調査研究」で日本造園学会賞。島根県安来市の「足立美術館庭園」が着工し、

全共闘・・・1969 = 52歳：

万博の開会で一段落も、「足立美術館庭園」に心血を注ぎ、

大阪万博・・1970 = 53歳：

シンガポール・ジュロンの日本庭園工事を現地で監督、完成後、「星和園」と名づけられ、名所になる。

ドルショック・・1971 = 54歳：

大阪芸術大学環境計画学科の設立により、同学科教授兼学科長に任命される。「足立美術館庭園」が完成。

日中国交回復1972 = 55歳：

この前後、大学には海外からの留学生が、仕事もマレーシア、ブラジル、北京など海外が増大し超多忙、

石油ショック1973 = 56歳：

ウィーン国際園芸博覧会の日本庭園の設計作庭で、オーストリア園農林大臣銀賞と園芸協会金賞。

角栄金脈辞任1974 = 57歳：

「名園のみかた」。(社)日本造園修景協会理事となる。

JALハイ-ック・1977 = 60歳：

「宮廷の庭・大名の庭」など著作も続いた。

革新大敗北・1979 = 62歳：

佐賀県武雄市の「武雄センチュリーホテル内慧洲園」、

貿易摩擦始・1980 = 63歳：

東京農業大学造園大賞

・・・・1981 = 64歳：

第7回日本公園緑地協会北村賞。全国日本学士会アカデミア賞。

中曽根内閣・1982 = 65歳：

YKK社長の吉田忠雄からの依頼で、渡米し、カーター元大統領の記念館の日本庭園の設計に着手、

ドイツ-ラント・1983 = 66歳：

国際交流基金の依頼で欧州各国で講演。堺市の「大仙公園内日本庭園」、ボストン美術館から依頼されて、

ジャンボ機墜落1985 = 68歳：

「ジミー・カーター・プレジデントセンター日本庭園」が完成後、美術館委員長と手分けして綿密に調査、

バブル始・・1986 = 69歳：

*設計作庭して完成させ、「天心園」と名づけられる。大阪芸術大学学長に選出されるも、作庭を続け、

竹下内閣・・1987 = 70歳：

「大仙公園内日本庭園」完成し、

リクルート事件・1988 = 71歳：

研究所を左京区下鴨から現在の地に移転。_建設大臣賞。

昭和天皇没・1989 = 72歳：

{静岡新聞}に自伝「わが青春」連載。_「ヴェルツブルク市日本庭園」で日本造園コンサルタント協会特別賞、

ド-統一・・1990 = 73歳：

_大阪市民表彰、

ソ連崩壊・1991 = 74歳：

日本造園学会上原敬二賞。生涯に内外で300近い庭園を作庭し、

55年体制終・1993 = 76歳：

呼吸疾患で入院中、心室粗動により_没した。正五位勲三等瑞宝章追贈。

自社さ連立・1994 = 77歳：

オム事件・・1995 = 78歳：